

広吉敦子の区議会報告 第4回定例会



災害時の二次被害を防げ！ 公園づくりは子ども参加で

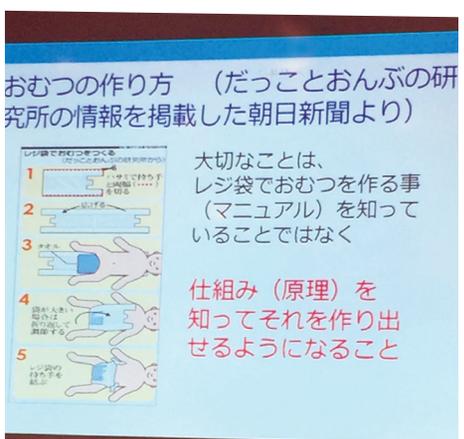
目黒区地域防災計画の中に二次被害を防ぐ手立てがないためその対策と、身近な公園のことから将来を担う子どもたちの積極的な施策づくりへの参加を促すため、議会質問に取り組みました。



地震発生時の家具転倒防止策と水の取り扱い

大地震でのけが人の約半数は家具の転倒、落下が原因

地震発生時に多くの方が屋内でけがをしていますが、その半数が家具の転倒や落下によるものです。家具転倒防止用L型金具で家具をしっかり固定することは、大地震で自分の身を守るために効果があります。目黒区は障がい者や一人暮らしの高齢者に対して家具転倒防止金具の取り付け費用の助成を行い、推奨していますが、区営住宅や一般賃貸住宅には、原状回復の制限があるため浸透していません。しかし、法的には一般賃貸住宅でも貸主の了承があれば、取り付け穴の原状回復の義務はありません。区民の命と安全を守るために、家具転倒防止金具の取り付け



災害時のトイレは切実な問題です。そこで、災害弱者となる赤ちゃんなどの簡易オムツの原理をご紹介します。

と、原状回復の義務がないことを周知拡大すべきです。

発災直後にマンション等の集合住宅ではトイレの水を流さない

発災直後は下水道の配管が破損している可能性があるため、トイレの水を流すと下層階のトイレから溢れ出す危険があります。その

ため、基本的にマンション等の集合住宅では、大地震直後は簡易トイレなどを利用し、トイレの使用を一定期間禁止する必要があります。また、電力回復後の通電火災を防ぐために発災直後はブレーカーを落とし、安全確認後にブレーカーを上げるのが重要です。目黒区内ではマンションも多いため、マンション防災マニュアルにわかりやすく記載するよう働きかける必要があります。



子どもの市民参画と屋上緑化

子どものことは子どもが決める社会へ

公園の改修・新設工事をするときには、学校を通じて子どもたちにアンケート調査を実施しています。今後はアンケート調査だけでなく、学校と区が連携して、教育の一環として子どもたちが施策づくりに関われるようにしていくことが大切です。子どもたちの意見を積極的に反映させ、自治意識を高めることが、誰もが住みよい目黒のまちづくりへとつながっていくのではないのでしょうか。

ヒートアイランド対策やコミュニティづくりにもなる屋上緑化をさらに進めよう

目黒区は緑被率20%を目指していますが、樹木や緑地の保有を民有地に依存しているため、達成するには程遠い状況です。マンションが増え、宅地は細分化され、ますます緑地が減少しています。CO2削減のため緑を増やすには、屋上を活用することも有効です。最近、屋上



予算要望

11月 食の安全や環境問題、子どもや介護などの課題を盛り込み、来年度に向けた予算要望を市民団体の方と一緒にを行いました。

懇談の場では「毎日通る道が改良されたのに、以前より歩道の幅が狭くなり、ベビーカーで信号待ちをすると、すれ違うのが困難になってしまった。」と日ごろ感じていることを直接伝えることが出来ました。



駒沢公園近くの個人住宅の屋上菜園。沢山の人の手で野菜の苗を植えました。収穫の楽しみもあります。

菜園が増えてきました。土運びから水やり、収穫と人の手が必要な作業のため、自然とコミュニティが形成されます。目黒区では敷地面積1000㎡未満の建築物が荷重に耐えられる構造であれば、「屋上緑化助成」が上限30万円まで受けられます。屋上緑化することのメリットをマンションや企業などに機会あるごとに周知し、さらに進めていくべきです。